

志小安全・防災だより



バックナンバーは本校 Web ページ (右の QR コード) でご覧いただけます。

R2. 11. 17 No.32

安全・防災担当: 早坂 潤

社会の学習で学校の周りの消防設備について調べました

11月9日に3年生の校外学習で、学校周辺にある消防設備を調べる活動を行いました。子供たちは、始めに「iPad」で学校周辺の地図を検索し、調べに行く場所の確認を行いました。子供たちは、「iPad」の操作はお手のものです。その後、地域に出かけてからも、消防設備の防火水槽や消火栓、ポンプ小屋などの画像をどんどん取り込んでいました。城場にあるポンプ小屋には、掲揚塔のような高い棒に何かを引っかけるようなものがあります。子供たちは、それが何なのか分からなかったようですが、担任より、ホースをかけて干すものであることを教えてもらい、さらに興味をもって観察していました。3年生の子供たちは、今週、南三陸消防署の見学に出かけます。志小の避難訓練でも日頃お世話になっている南三陸消防署の方々から多くのことを学んできてほしいと思います。



学校周辺の地図から、消防設備が設置されているような場所をみんなで考えました。

ポンプ小屋の中には、火災発生時に消火活動を行うための道具や車が入っているそうです。

「志津川永電社」と書かれた古い看板のある建物の隣に「防火水そう」の表示を発見しました。

「防火水そう」の看板の下はこのようになっています

下の写真は、「防火水そう」の下に埋められている大きなタンクです。3年前に工事をしているときに、地域の方からなかなか見られないものなので写真に撮ることを勧められ、記録していたものです。これだけの大きなタンクの中に水を入れるのに何日もかかっていたことを覚えています。昔、この辺りの地区（城場地区）には今のような防火水槽がなく、八幡川の水をポンプで汲み上げて使っていた話を聞かされたことがあります。今では川底が浅いし、コンクリートの川岸から水面まで大分距離があるので、汲み上げが困難なのだそうです。



重機でプールのように掘り起こしていました。



このような大きなタンクが埋められています。

